

June 10, 2019

【前日の為替概況】ドル円、続落 米雇用者数や平均時給が予想より弱い

7日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は108.19円と前営業日NY終値(108.40円)と比べて21銭程度のドル安水準だった。米労働省が発表した5月米雇用統計で、非農業部門雇用者数は前月比7万5000人増と予想の前月比18万5000人増を大きく下回ったほか、物価上昇の先行指数として注目される平均時給は前月比0.2%上昇/前年比3.1%上昇と予想の前月比0.3%上昇/前年比3.2%上昇より弱い内容となった。米連邦準備理事会(FRB)による早期利下げ観測が一段と強まり、全般ドル安が進んだ。米10年債利回りが一時2.0517%前後と2017年9月8日以来約1年9カ月ぶりの低水準を付けたことも円買い・ドル売りを促し、22時前に一時107.88円と日通し安値を付けた。

ただ、5日の安値107.82円が目先サポートとして意識されると下げ渋った。米国株相場の上昇や米長期金利の低下幅縮小も相場の下支え要因となり、108.26円付近まで戻す場面があった。なお、ダウ平均は一時350ドル超上昇し、ナイト・セッションの日経平均先物は日証終値比140円高の2万1060円まで買われる場面があった。

ユーロドルは続伸。終値は1.1334ドルと前営業日NY終値(1.1276ドル)と比べて0.0058ドル程度のユーロ高水準だった。欧州市場では1.1251ドルの本日安値まで売られる場面もあったが、低調な米雇用統計をきっかけにFRBが早期に利下げすると観測が強まると一転ユーロ買い・ドル売りが優勢に。24時前に一時1.1348ドルと3月22日以来の高値を付けた。その後は週末とあって値動きが鈍ったものの、1.1330ドル台での堅調地合いを維持した。

ユーロ円は続伸。終値は122.61円と前営業日NY終値(122.23円)と比べて38銭程度のユーロ高水準。米国株相場の上昇を背景に、投資家のリスク志向が改善すると円売り・ユーロ買いが優勢となった。3時30分過ぎに一時122.72円と5月27日以来の高値を付けた。

カナダドルは堅調。カナダ統計局が発表した5月カナダ雇用統計で、新規雇用者数が2万7700人増と予想の8000人増を上回り、失業率が5.4%と予想の5.7%より強い内容となったことを受けた。原油先物価格の上昇を背景に産油国通貨とされるカナダドルを買う動きも見られ、対米ドルでは一時1.3262カナダドルと3月20日以来の高値を更新。対円では81.58円と5月30日以来の高値を付けた。

メキシコペソは持ち直した。「米・メキシコの協議は7日にかけても継続」との報道やトランプ米大統領の「メキシコと合意する可能性は十分ある」とのツイートを受けて、米国とメキシコの貿易摩擦に対する警戒感が和らぎ、通貨ペソを買い戻す動きが広がった。対ドルでは19.5554ペソ、対円では5.53円の本日高値までペソ高が進んだ。

【本日の東京為替見通し】米墨間合意は自作自演でリスクオフは変わらずか、東京仲値には警戒

本日の東京市場のドル円は、週末にトランプ米大統領がメキシコからの全輸入品に対する関税発動を見送ったことで、ドル買い材料はあるものの、リスクオフ相場は継続するか。

週末、大統領自身のツイッターで発表されたメキシコ関税見送りだが、市場が閉まっていたこともあり、市場は冷静に今回の対応を分析する時間があった。関税見送り自体はドル買い、株買いでリスクオンになるニュースだったが、各国の報道は大統領に対して厳しい論調が多い。NYタイムズ紙やワシントンポスト紙は「自作自演」との厳しい論調。また、大統領がツイートした農産物輸入の合意に、メキシコ側が「全く合意していない」と述べている。突如としてメキシコへの制裁を発表したが、ライトハイザー米通商代表部(USTR)代表やムニューシン米財務長官など政権の中核メンバーや、多数の共和党議員が反対しているため、慌てて修正して合意したという各紙の報道が正しい可能性が高い。また、合意事項では「不法移民の抑制効果が出ない場合は再度、協議を実施する」としているように、実際の今回の合意が何をもたらすか未知数だ。

ドル円の買い材料は、本日はゴト一日(5・10日)で、東京仲値にかけてドルが買われる可能性が高い。特に本日は投信の設定が複数控えていることもあり、仲値や投信の設定時間などでいびつな動きになることに警戒したい。

ドル売り材料は、週末にサウジアラビアが「ファーウェイを排除せず」と発表したこと、香港での大規模デモなど、仮に米墨間の国境問題が解決されても国際情勢の不安が解消されることはなく、リスクオフ相場が続くそうだ。

ドル円以外では、東京時間ではドル円やクロス円に左右されることになるだろうが、欧州入り後に4月の英国内総生産（GDP）が発表されることで、ポンドの動きには警戒したい。先週6日、ピーターバラの選挙で与党・保守党が敗北したこともあり、保守党の党首選をめぐる攻防もポンドを動意づけることになりそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◎ 4月国際収支速報
 - ◇ 経常収支（予想：季節調整前1兆5155億円の黒字／季節調整済1兆4402億円の黒字）
 - ◎ 貿易収支（予想：50億円の黒字）
- 08:50 ☆ 1-3月期実質国内総生産（GDP）改定値（予想：前期比0.5%／前期比年率2.1%）
- 14:00 ◇ 5月景気ウォッチャー調査（予想：現状判断指数45.5／先行き判断指数48.0）

<海外>

- 未定 ◎ 5月中国貿易収支（予想：205億ドルの黒字、1360億元の黒字）
- 17:30 ☆ 4月英国内総生産（GDP、予想：前月比▲0.1%）
- 17:30 ◎ 4月英鉱工業生産指数（予想：前月比▲0.7%／前年比1.0%）
 - ◎ 製造業生産高（予想：前月比▲1.0%）
- 17:30 ◇ 4月英商品貿易収支／英貿易収支（予想：129.6億ポンドの赤字／47億ポンドの赤字）
- 18:30 ◎ ホールデン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 21:15 ◇ 5月カナダ住宅着工件数（予想：20万件）
- 21:30 ◇ 4月カナダ住宅建設許可件数（予想：前月比0.5%）
- オーストラリア（女王誕生日）、スイス、ノルウェー、ドイツ（聖霊降臨祭翌日の月曜日）、休場

11日

<国内>

- 08:50 ◇ 5月マネーストック M2

<海外>

- 07:45 ◇ 1-3月期ニュージーランド（NZ）製造業売上高
- 10:30 ◇ 5月豪 NAB 企業景況感指数

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

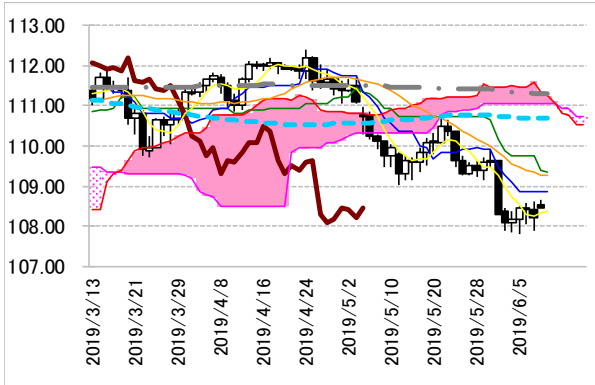
※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

- 7日 05:43 米ホワイトハウス
「米政府は依然としてメキシコからの輸入品に対する追加関税の発動を進めている」
- 7日 06:08 ペンス米副大統領
「現時点では対メキシコ関税の発動は10日」
「メキシコとの合意はまだない。協議は継続」
- 7日 08:12 エブラルド・メキシコ外相
「米国とメキシコの交渉は前進しているが、合意はまだ」
「関税に関する交渉は7日も継続」
- 7日 08:56 茂木経済財政相
「6月13日に訪米し、ライトハイザー米通商代表部(USTR)代表と閣僚級協議の方向で調整」
「立場の開きを埋める努力をし、双方の利益となる合意を目指す」
- 7日 11:15 トランプ米大統領
「メキシコは米国を必要としているが、米国はメキシコを必要としていない」
「中国は合意を望んでおり、中国との合意を必ず引き出すだろう」
「正直に言って、米連邦準備理事会(FRB)は利下げすべきだった」
「利上げが無ければ、10000ポイント上昇しているはずだ」
- 8日 02:21
「メキシコと合意する可能性は十分ある」
- 7日 11:49 麻生財務相
「G20財務相・中央銀行総裁会議では、ムニューシン米財務長官と会う予定だが、内容は今の段階では言えない」
「G20のマルチの場で、貿易に関して議論することに意義がある」
- 7日 12:00 易綱中国人民銀行(中央銀行)総裁
「貿易戦争が悪化しても、政策余地は十分ある」
- 7日 13:13 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁
「米経済は中立的な成長ペースに落ち着きつつある」
- 7日 15:39 ブンデスバンク(ドイツ連邦銀行)
「独の成長予測を1.6%から0.6%に変更」
「2020年のGDP予測を1.6%から1.2%に、2021年を1.5%から1.3%に」
「2019年のインフレ予測は1.4%に据え置き」
「2020年のインフレ予測を1.8%から1.5%に、2021年を1.8%から1.7%に」
「GDPは第2四半期に若干弱まるものの、第3四半期に持ち直すと予測」
「個人消費と投資は2019年以降は弱まると予測」
「独の輸出は2019年下半年から上昇しはじめると予測」
- 7日 17:07 ノボトニー・オーストリア中銀総裁
「リセッションのリスクはない、景気が減速しているだけ」
- 7日 19:16 バイトマン独連銀総裁
「金利に関するECB声明文の変更は適切」
- 7日 22:16 ホワイトハウス報道官
「メキシコとの協議は長い道のりとなる」
「メキシコ製品に関税をかける計画に向けて依然動いている」
- 7日 22:21 習近平・中国国家主席
「相違があっても貿易戦争の解決方法を探すべきだ」
「トランプ米大統領は私の友人」
「米中は一定の緊張にもかかわらず相互に関連している」
- 7日 22:27 サルビーニイ副首相(同盟党首)
「ユーロを去る計画はない」

※時間は日本時間

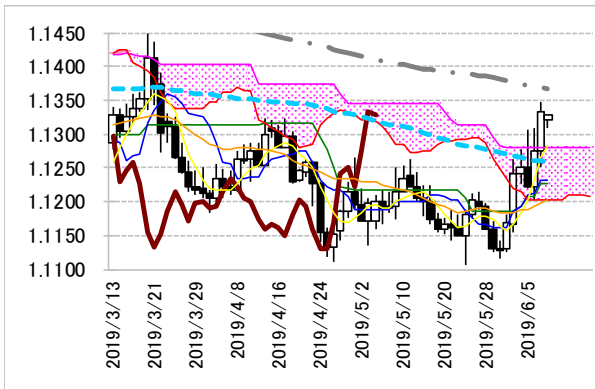
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円＝上値に抵抗が多く、戻しても緩やかなペースか>

下影小陰線引け。一時108円割れとなるさえない推移だったが下げ渋り、週明けは108円半ばで取引をスタートした。一目均衡表・転換線が目先の重し。その上にも低下中の21日移動平均線や一目・基準線109.39円が控えている。戻りを試すにしても、段階的で緩やかなペースとなりそう。

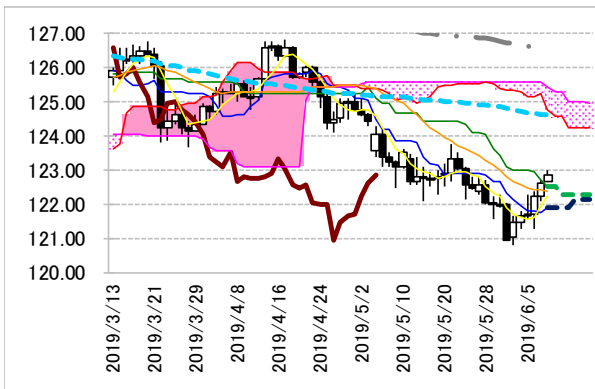
レジスタンス 2	109.26(21日移動平均線)
レジスタンス 1	108.88(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	108.19
サポート 1	107.82(6/5安値)



<ユーロドル＝200日線付近から上値が重そう>

陽線引け。一目均衡表・雲の抵抗をこなし、3月22日以来の高値1.1348ドルまで上値を伸ばした。1.1367ドル前後で低下中の200日移動平均線付近からは上値が重くなりそう。いったん押し戻されることが考えられる。だが、下押しをいったん伸び悩んだ際につけた5日高値1.1309ドル、6日高値1.1309ドル付近にとどめることができれば地合いの強さの確認となる。さらなる上昇が期待できる。反落がやや深めでも、雲の上限付近にとどまるだろう。

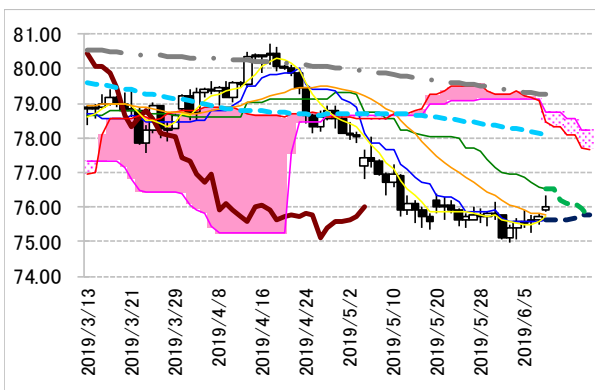
レジスタンス 1	1.1391(3/22高値)
前日終値	1.1334
サポート 1	1.1280(日足一目均衡表・雲の上限)



<ユーロ円＝基準線を越えた水準で不安定な推移も>

陽線引け。週明けの続伸で、5月23日以来の123円回復をうかがう様相となっている。一目均衡表・基準線122.54円を越えた現水準で伸び悩み、低下傾向の同線を追うように下押し不安定な展開も想定しておきたい。だが、やがて下値の一目・転換線が上昇し、下支えとなる見込み。底割れ状態は回避できるだろう。

レジスタンス 1	123.10(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	122.62
サポート 1	122.22(5日移動平均線)



<豪ドル円＝転換線・基準線レンジの上抜けをうかがう>

下影小陽線引け。76円付近で戻りを試す展開となっている。一目均衡表・転換線と基準線に挟まれたレンジ内。両線の交差が想定される75.80円付近にいったん収れんする可能性も視野に入れて臨みたい。転換線の下支えを維持し、やがて同線とともに基準線をこなす展開を想定する。

レジスタンス 1	76.51(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	75.74
サポート 1	75.64(日足一目均衡表・転換線)

